

地域資源を活用した生徒の主体的な教育活動の充実について

北海道天塩高等学校 学級数 3 (校長 相馬 佑香)

□ 実践の概要

本校では、令和6年度から MA+CH プロジェクト指定校として地域資源を活用し、総合的な探究の時間等の充実を図っている。また、既存の高大連携プログラムや天塩町の行事との関わりについて、生徒の主体性に着目し、課題意識をもって外部と協働的に取り組みながら、自己の成長を実感できる教育を目指している。

1 実践の目的

生徒が、地域の課題を自分ごととして自ら解決し、他者との協働を通して課題解決能力を身に付けながら、多様な場面での発表活動により発信する能力を高める。また、地域の人との協働等によって社会参画意識の向上を図り、社会を創造する主体としてのキャリア教育の充実に資する。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① コーディネーター及び天塩高校探究メンターによる探究活動への伴走支援・助言
- ② 天塩町行事や高大連携における生徒の主体的な関わりについて

(2) 取組の具体

- ① 地学協働コーディネーター、地域コーディネーターによる、生徒への探究活動についての講義等を充実させ、探究プロセスの浸透を図ったほか、探究活動において地域とのスムーズな連携を目指した。さらに、生徒が探究活動を行う際には、外部人材（以下「メンター」という。）6名が2年生の総合的な探究のチームに加わり、生徒の探究活動に助言するとともに、生徒が地域とやりとりする際の協力を行った。メンターに対しては、生徒の伴走者であることを依頼するなど、生徒の主体性を重要視するとともに、メンター、コーディネーター及び教職員間のチャットを開設し、生徒の活動に関する情報共有を密にした。

- ② 学校行事や町主催の行事、高大連携シンポジウムに参加し、運営協力や政策提言に繋がる地域課題に係る探究活動の成果発表を行うなど、生徒が主体性をもって地域社会に関わりながら、実社会における自分の存在や役割などについて考える機会を充実させた。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

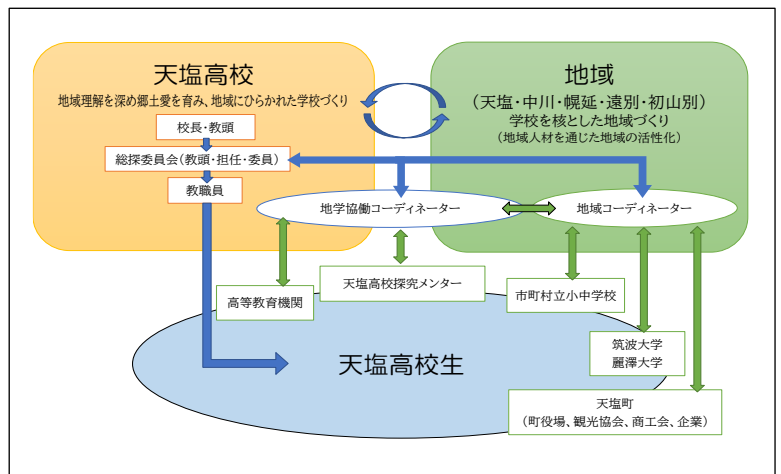
生徒、教職員及び地域に対してアンケートを実施した。生徒からは、地域について課題意識をもって見つめ直せたこと、コーディネーターや地域の方と一緒に一つのことを追究できたという評価があったが、生徒自身の将来に係る記述は少なかった。教職員からは、生徒が主体的に探究活動を行えたことや、各連携先と協働して実施できたことが成果として挙げられる一方で、各行事や各連携先の役割が曖昧になった点が課題として挙げられた。地域からは高校生が主体のイベントが実施されたことについて評価された。

(4) 改善に向けた取組

- ① 本取組が、生徒の進路意識の変容をはじめとしたキャリア形成に与える影響については、今後も、アンケートやポートフォリオを用いた記録を継続し、検証・改善する必要がある。
- ② 各行事及び連携先等との役割について再検討し、役割を明確化した上で各取組の充実を図る。

3 実践のポイント

- ・課題の発見から解決に至るまで生徒が主体性をもって取り組んだこと。
- ・探究活動の様々な場面で地域資源を活用し、生徒が地域社会において探究活動を行えるようにしたこと。
- ・地域社会の課題に対して生徒が向き合い、成果を地域に発信することで、生徒が実社会における自分の存在や役割などについて考える機会を充実させたこと。



【本校と地域との関わりを示す構成図】